

目の前の子どもに今何が必要か 見極め実践する大切さを学んだ

埼玉県さいたま市立大宮小学校校長 **今村信哉** IMAMURA SHINYA

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で子どもを育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、今村校長が語る。

**教科や役割という枠組みで
指導の線引きをしない**

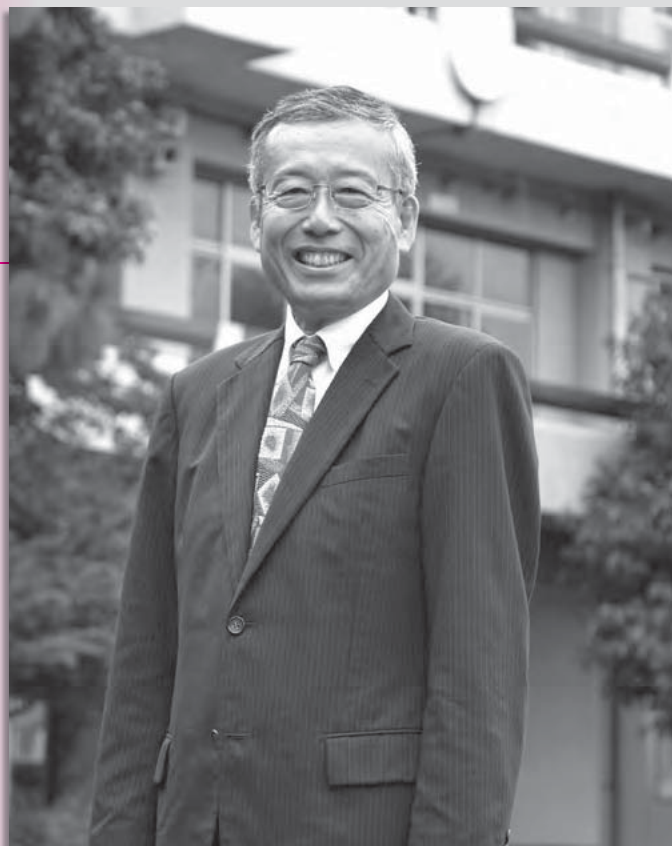
定年を控えて振り返ってみると、心の中にはいつも宮沢武敏^{たけとし}先生の姿が理想の教師像としてありました。中学校で理科を教わり、所属していた水泳部の元顧問です。

宮沢先生が他の先生と違ってしたのは、指導に線引きをしないことでした。例えば、ある日の理科の授業で先生は「これは今、必要だ」と言っ

て集合の考え方を教え始めました。「それは数学ではないか」と私たちが尋ねると、「花畑を例にしたから

理科だ」と笑いながら答えられました。また、家族とうまくいかず課題の多かった生徒を、先生は自宅に引き取り、しばらく一緒に暮らしていました。食事や洗濯など、身の回りの面倒も見ていたようです。教科や教師の役割という枠にとらわれず、目の前の子どもに今、必要なことは何かを見極めて実践する姿は、私の教師としての手本となりました。

宮沢先生の姿を最も意識したのは、いわゆる学級崩壊をした6年生の学級を受け持った時です。私は2学期から担任となり、まず子どもたちが何をしたいのか、その声に耳を



いまむら・しんや 専門は特別活動。小学校学習指導要領解説特別活動編作成協力者、「心のノート」改訂作業部会協力委員等を歴任。現在、さいたま市立幼児教育センター附属幼稚園園長、さいたま市小学校校長会会長も務める。

- 1980 (昭和55)
新採として浦和市立
(現さいたま市立)
辻小学校に赴任。
- 1987 (昭和62)
ケニアのナイロビ
日本人学校に赴任。
1990年に帰国後、
前任校へ
- 1991 (平成3)
浦和市立
(現さいたま市立)
中尾小学校に赴任
- 1996 (平成8)
浦和市
(現さいたま市)
教育委員会
指導主事に着任
- 1998 (平成10)
浦和市立
(現さいたま市立)
高砂小学校に
教頭として赴任
- 2001 (平成13)
草加市立高砂小学校
に赴任
- 2003 (平成15)
さいたま市立
北浦和小学校に
赴任
- 2006 (平成18)
さいたま市立
蓮沼小学校に
校長として赴任。
特別活動「希望の会」
の立ち上げに参画
- 2010 (平成22)
さいたま市教育委員会
教職員課副参事に着任。
翌年課長に
- 2012 (平成24)
さいたま市立
大宮小学校に赴任

「教育に流行はない。不易の中で 今、必要とされているのが流行」



傾けました。しかし、子どもたちは、私の方を全く見ようとしません。そこで、毎日1時間、授業時間に机を教室の後ろに寄せて車座になり、どんな学級にしたいかを話し合わせました。子どもが何を考えているのかを引き出し、自分に何が出来るのかを探ろうとしたのです。

子どもたちは、始めは「協力する」「仲良くする」と表面的な言葉ばかり言いました。「本当にそう思っているのか」と何度も問い返すと、次

第に思いを口にしていきました。最終的に学級の目指す姿を決めること

になり、「チャーハン」と「ミックスジュース」が候補となりました。それぞれへの支持が拮抗する中、ある子が「チャーハンは元の材料がよく分かる。でも、ミックスジュースは元が何か分からないから嫌だな」と発言。途端に、満場一致で「チャーハン」に決まったのです。話し合いを重ねるうちに、学級が更に一体感を持つようになりまし

た。「チャーハン」という目標から、「集まろう、一粒一粒おいしいクラス」とキャッチフレーズが決まり、授業にも落ち着いて取り組むようになりました。子どもたちはやりたいことが分からない苛立ちを発散させていたのだと思います。子どもに寄り添い、何をしたいのかを引き出し、その実現を支えることが教師の役割なのだと、改めて感じました。

相手が誰であれ 丸ごと受け入れる

「教育の基本はカウンセリングマインド」という考えを持ったのも、宮沢先生の大きな影響があります。私が指導主事になった頃、同窓会で先生にお会いしたのですが、「担任も管理職も、カウンセリングを学ぶべきだ」と言われました。ちょうど教育界にカウンセリングの必要性が言われた始めた頃で、私は流行の1つとしか思っていませんでした。しかし、先生の言うことは重要なのだらうと、カウンセリングについて自分なりに勉強したのです。次第に、カウンセリングは流行ではなく、教育において不易だと思うようになりました。

私の理解では、カウンセリングは相手を丸ごと受け入れ、何をしたいのかを引き出すことです。それは、私が子どもに接する時に最も大切にしてきたことでした。授業をまじめに受けず反抗されると、平常心ではいられず、子どもから距離を置きたくなることもあります。でも、担任が諦めてしまったら、誰がその子を認めるのでしょうか。

カウンセリングマインドが重要であることは、管理職でも同じだと思います。校長として先生方や保護者から相談を受ける時にも、また、市の小学校長会長として後輩の校長から相談を受ける時にも、私は担任時代と同じ姿勢で接しています。頭ごなしに自分の考えを伝えて、意欲を潰してはいけません。子どもに接する先生方が思いを実現しやすい環境をつくるのが、校長なのです。

教育には不易と流行があると言われます。でも私は、大切なのは不易であり、流行は不易の中で今クローズアップされていることだと思うのです。そのことに気付いたのも、宮沢先生の示唆があったから。私はこれからも先生が示してくれた教師のあり方を求め、追いつけていきます。